

氏名	岡 田 隆 彦		
学 位 の 種 類	医 学 博 士		
学 位 授 与 番 号	博 甲 第 865 号		
学 位 授 与 の 日 付	平成 2 年 3 月 31 日		
学 位 授 与 の 要 件	医学研究科外科系外科学(二)専攻 (学位規則第 5 条第 1 項該当)		
学 位 論 文 題 目	慢性閉塞性動脈疾患の血液学的研究 一特に IDL, 血清 Laminin 値を中心として		
論 文 審 査 委 員	教授 折田薫三	教授 木村郁郎	教授 産賀敏彦

学 位 論 文 内 容 の 要 旨

閉塞性動脈硬化症 (ASO) および Buerger 病 (TAO) において IDL およびその脂質分画, 血清 Laminin 値を測定し, さらに血管造影写真より末梢動脈の Run Off 値を測定し, これらが両疾患の病態解明, 患肢の重症度や予後判定に有用であるかどうかを検討した。

IDL, IDL-コレステロール, IDL-リン脂質は ASO 群において TAO 群, コントロール群と比べ有意に高値を呈していたが, TAO 群とコントロール群とでは有意差を認めなかった。すなわち, ASO の成因として IDL, IDL-コレステロール, IDL-リン脂質の関与が示唆された。

次に血清 Laminin 値, Run Off 値は, ASO 群, TAO 群において有意差を認めなかったが, ASO, TAO に関係なく, 患肢の末梢循環障害が進行するにしたがい, 血清 Laminin 値は高値を呈し, Run Off 値は低値を呈する傾向を認め, さらに, 患肢切断を余儀なくされた群は, 術前検査で有意に血清 Laminin 値の上昇と Run Off 値の低下が認められた。

以上より血清 Laminin 値および Run Off 値は, 患肢の重症度や予後判定に有用であると考えられた。

論 文 審 査 の 結 果 の 要 旨

本研究者は, 血管内皮細胞下の基底膜の主要構成成分である Laminin (M. W. 100 万の糖蛋白) と intermediate density Lipoprotein (IDL) の血清値を, 閉塞性動脈硬化症 (ASO) および Burger 病 (TAO) 患者で測定し, IDL が ASO の成因に関連のあ

ることをまず明らかとしている。Laminin は疾患とは無関係に患肢の末梢循環障害の程度に比例して上昇，Run Off 値とは逆比例することから，Laminin 値は患肢切断の適応決定に有用なことを明らかとした。臨床上，価値ある業績であり，本研究者は医学博士の学位を得る資格のあることを認める。